2025 年度医学科学士選抜・学校推薦型選抜

「小 論 文（日本語)」採点基準説明書

１．出題のねらい

課題文の著者は、「自分の顔を自分の眼そのもので見ることはできない」にも関わらず、自分が傷つけた相手が自分に向ける恨みの目つきや憎しみにゆがむ唇、あるいは自分を見つめる柔らかな表情を前にして、「自分の顔を思い知らされる」ことがあると述べる。

私たちは、自分が関わる他者の表情や様子を振り返ることを通じて、自分はどのように人と接しているのか、自分はどのような人間なのかを深く内省する（思い知らされる)。こうした「自分の顔を思い知らされる」経験がそもそも何を意味しているのかを理解するには、自他関係の成り立ちを分析して、内省的に自己を捉えることが必要となる。

臨床現場でも、マニュアル的・画一的な応答ではなく、医療者自身の内省を伴う自他関係の構築が求められている。

２．アドミッション・ポリシーとの対応

［対応するアドミッション・ポリシー］

１．十分な基礎学力を持ち、自ら問題を発見し解決しようとする意欲のある人。

→課題文の内容を自らの経験や知識と関連させながら理解したうえで、問いに対して、具体例を用いて論理的に説明することができる。そのための文章構成力にも長けている。

３．礼節を重んじながら自らの考えを他者に伝えるとともに、他者の多様な意見を理解しようとする協調性と柔軟性に富む人

→自分と他者の視点を行き来しながら、そこにある関係のあり様を踏まえて、内省的に自己を分析して説明することができる。